

Lithodoidea タラバガニ上科**Hapalogastriidae** ヒトゲガニ科***Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)** ヒトゲガニ
(図 7E, 54)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦, 潮間帯, 転石下, 2011年8月6日, 2オス (cl 13.6, 13.8 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 水深1 m, 転石下, 2011年8月13日, 1オス (cl 17.1 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 水深1 m, 転石下, 2013年8月23日, 2オス (cl 10.1, 11.4 mm), 1メス (cl 10.0 mm), SNMH. 鳥取県. 岩美町熊井浜, 2006年7月22日, 1性未確認個体 (cl 未測定), TRPM-CB-0000125. 岩美町田後, 2009年10月17日, 1オス (cl 15.1 mm), TRPM-CB-0000597.

分布. ロシア, 日本 (北海道から九州まで), 韓国 (三宅, 1998; Marin, 2013).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深10 m (三宅, 1998).

備考. 日本沿岸から知られているヒトゲガニ属 *Hapalogaster* Brandt, 1850 は, ヒトゲガニとショウジョウガニ *H. grebnitzkii* Schalfeew, 1892 の2種を含む (三宅, 1998). ショウジョウガニは, 日本国内では北海道東岸から知られている (三宅, 1998; 峯水, 2002).

本種は動きが鈍く, 石の下に張り付いており, 体をつかむと胸脚を丸める行動を示す. 島根半島の岩礁海岸では, 潮間帯下部から潮下帯にかけての転石下にまとまって, 複数個体を確認できる.





図 54. *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849) ヒラトゲガニ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (cl 未測定), 背面 (A); 同, 腹面 (B); 島根県松江市島根町加賀桂島, メス (cl 未測定), 背面 (C); 同, 腹面 (D).

***Oedignathus inermis* (Stimpson, 1860) イボガニ**

(図 55)

調査標本. 島根県. 松江市島根町野井, 1990年8月10日, 1乾燥メス (cl 11.1 mm), TRPM (未登録). 鳥取県. 岩美町東浜沖 150 m, 1995年8月6日, 8乾燥個体 (4オス, 最大 cl 16.4 mm; 4性未確認, 最大 cl 13.7 mm), TRPM (未登録). 岩美町網代漁港, 2009年8月4日, 2オス (cl 16.0, 16.5 mm), TRPM-CB-0000510.

分布. 韓国, 日本 (北海道から相模湾・福岡県まで), ロシア, ベーリング海, アラスカ海からカリフォルニア (三宅, 1998; 朝倉, 2005; 倉持・池田, 2007; 本尾, 2007; Marin, 2013; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 波浪の強い岩礁; 潮間帯から水深 50 m (三宅, 1998; 朝倉, 2005).

備考. イボガニ属 *Oedignathus* Benedict, 1895 には, イボガニ *O. inermis* のみが含まれる. 本種は, ヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)と同様に, 袋状の柔らかい腹部を持つ. イボガニでは, 甲や胸脚に多数のいぼ状突起を持つ一方, ヒラトゲガニでは, 甲の側縁および胸脚の前縁に鋸歯を持つことで区別できる. 日本沿岸では, ヒラトゲガニに比べて, イボガニの記録は限られている.



図 55. *Oedignathus inermis* (Stimpson, 1860) イボガニ, 鳥取県岩美町網代, 漁港, オス (cl 16.5 mm), エタノール液浸.

Lithodidae タラバガニ科***Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815)** タラバガニ

(図 56)

調査標本. 鳥取県. 境港市, 境港水産物地方卸売市場, 2014年10月, 画像のみ.

分布. 北極海, ベーリング海, カムチャッカ. オホーツク海, 日本, 韓国 (上田, 1958; 三宅, 1998). 日本での記録は, 北海道羅臼町・襟裳岬, 日本海 (北海道から山口県) (上田, 1958; Miyake et al., 1962; 三宅, 1998).

生息場所. 岩礁; 水深 3–800 m (峯水, 2002). 通常, 200 m を超える深海域に生息するが, 春期に浅所に移動し, 抱卵メスは幼生をふ化させる. その後, メスは脱皮を行い, オスと交尾し, オスとともに浅所から深所に移動し, 翌春に再び幼生をふ化させるために浅所に戻ってくる (酒井, 1976). 一方, 甲幅 30–50 mm の若い個体は, 浅所で通年確認できる (峯水, 2002).

備考. 境港水産物地方卸売市場の生け簀内において, タラバガニ *Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815) を確認した. 甲幅が 200 mm ほどになる, 高価な漁獲対象種で, かつてはカニ缶詰として数多く加工・消費されていた (酒井, 1976; 岸田, 1963b). 寒海性種であり, 「山陰」での漁獲は限られていたようであるが, 岸田 (1963b) によると, 鳥取県の漁獲統計では, タラバガニの漁獲量は, 1952–1958 年において年間約 3–14 トンあった. 現在, 「山陰」を含む本州日本海沿岸でのタラバガニの漁獲量は皆無に等しい (本尾, 2007).

なお本尾 (2007) は, 岸田 (1963b) に基づき, タラバガニが山口県から記録されているとしているが, 岸田 (1963b) の記録は鳥取県または兵庫県から得られた個体に基づくものである. 日本海の日本側におけるタラバガニの分布の南限が山口県であることは, 上田 (1956, 1958) が述べている.

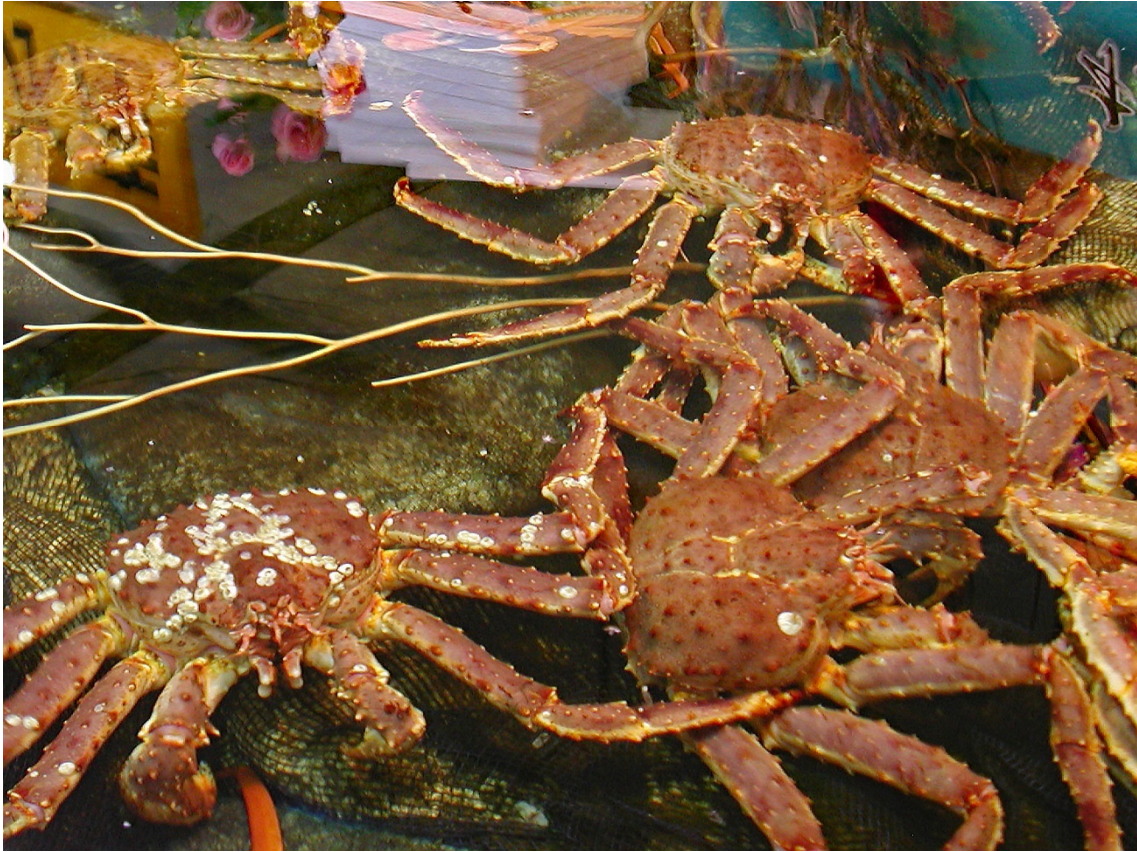


図 56. *Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815) タラバガニ, 鳥取県境港市, 境港水産物地方卸売市場, 画像のみ.

Chirostyloidea ワラエビ上科

Chirostylidae ワラエビ科

***Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968** オルトマンワラエビ

(図 57)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, 水深 27 m, 2021 年 10–11 月, 抱卵メス, 画像のみ.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から薩摩半島, 伊豆諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県; 福岡県沖ノ島), 台湾 (Osawa, 2007; Lin and Osawa, 2014; 本報).

生息場所. 岩礁, 礁斜面; 水深 10–90 m (Miyake and Baba, 1968; 峯水, 2002; Osawa, 2007). ウミトサカ類, イソバナ類, ウミカラマツ類 (刺胞動物門: 花虫綱)の群体上に棲む (加藤・奥野, 2001; 峯水, 2002).

備考. 標本は得られていないが, 画像の個体の色彩は, Osawa (2007)によるオルトマンワラエビ *Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968 の再記載のものによく一致しており, 当種であることは間違いない. 本報は, 日本海沿岸からのオルトマンワラエビの初記録となる. 近年, 当画像の撮影地点ではオルトマンワラエビが一年にわたって出現し, かつ抱卵個体も確認されていることから同所で再生産していると推察される (撮影者 山崎英治氏私信).

日本沿岸から記録されているワラエビ属 *Chirostylus* Ortmann, 1892 は, オルトマンワラエビのほか, ムギワラエビ *C. dolichopus* Ortmann, 1892, *C. rostratus* Osawa and Nishikiori, 1998, ホシゾラワラエビ *C. stellaris* Osawa, 2007 の 3 種を含む (Osawa, 2007). 本州沿岸からは, ムギワラエビとオルトマンワラエビが記録されている (Osawa, 2007; Okuno and Osawa, 2016).



図 57. *Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968 オルトマンワラエビ, 鳥取県岩美町田後, 抱卵メス (pcl 未測定), 画像のみ (山崎英治氏 撮影).

Galatheoidea ガラテア上科**Galatheidae** コシオリエビ科***Galathea guttata* Osawa, 2004** テハンコシオリエビ (新称)

(図 58)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, 35°59.1'N, 134°31.0'E, 水深 12 m, SCUBA, 2017年10月11日, 1オス (pcl 3.1 mm), TRPM-785.

分布. 日本 (八丈島, 沖縄島, 久米島, 鳥取県), 南シナ海, ニューギニア, ニューカレドニア (加藤・奥野, 2001, *Galathea* sp. Bとして報告; Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 岩, 生・死サンゴ, 貝殻・砂泥底; 水深 1–54 m (Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015).

備考. これまでの記録 (Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015)から判断すると, 本種は西太平洋熱帯域に広く分布していると考えられる. 現時点での日本海からの記録は, 鳥取県沿岸のみに限られる (Osawa and Ota, 2020).

鉗脚の鉗部の背面末端部に見られる白斑 (Osawa, 2004: fig. 3A, B; 図 58)にちなみ, 本種の標準和名を「テハンコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-785)を指定する.



図 58. *Galathea guttata* Osawa, 2004 テハンコシオリエビ (新称), 鳥取県岩美町田後, オス (pcl 3.1 mm), エタノール液浸.

***Galathea orientalis* Stimpson, 1858 トウヨウコシオリエビ**

(図 59)

調査標本. 島根県. 境水道, 底曳網, 2010年3月24日, 1メス (pcl 5.5 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013年11月19日, 1オス (pcl 1.8 mm), SNMH. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深50 m, けた網, 2018年7月13日, 5性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深50 m, けた網, 2018年8月20日, 1性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深70 m, けた網, 2018年8月20日, 1性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町羽尾岬沖, ゴイシクラ, 35°60.4'N, 134°33.9'E, 水深10 m, SCUBA, 2018年8月13日, 1性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2'N, 134°31.1'E, 水深15 m, SCUBA, 2018年9月20日, 1性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 兵庫県. 新温泉町釜屋沖, 2008年3月14日, 2性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM-CB-000088.

分布. 日本 (北海道函館市; 太平洋側: 相模湾から鹿児島県, 奄美大島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県, 長崎県, 壱岐諸島沖), 韓国, 台湾, 東シナ海, 香港, 西オーストラリア (三宅, 1998; Baba et al., 2009; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 砂泥底, 岩礁, サンゴ塊, 転石, 海藻の基部; 潮間帯から水深549 m (峯水, 2002; Baba et al., 2009).

備考. 調査標本のほか, 島根県海士町 (隠岐諸島島前中ノ島)の養殖イワガキに付着する生物の間隙からも, 本種を確認している. また, 本尾・山内 (2011)は, 本種を島根県隠岐の島町 (隠岐諸島島後)から記録している.

トウヨウコシオリエビは, 日本沿岸において頻繁に確認でき, 出現記録も多いコシオリエビ類である. 全体的な色彩には, 幅広い変異がみられる (峯水, 2002; 図 59).

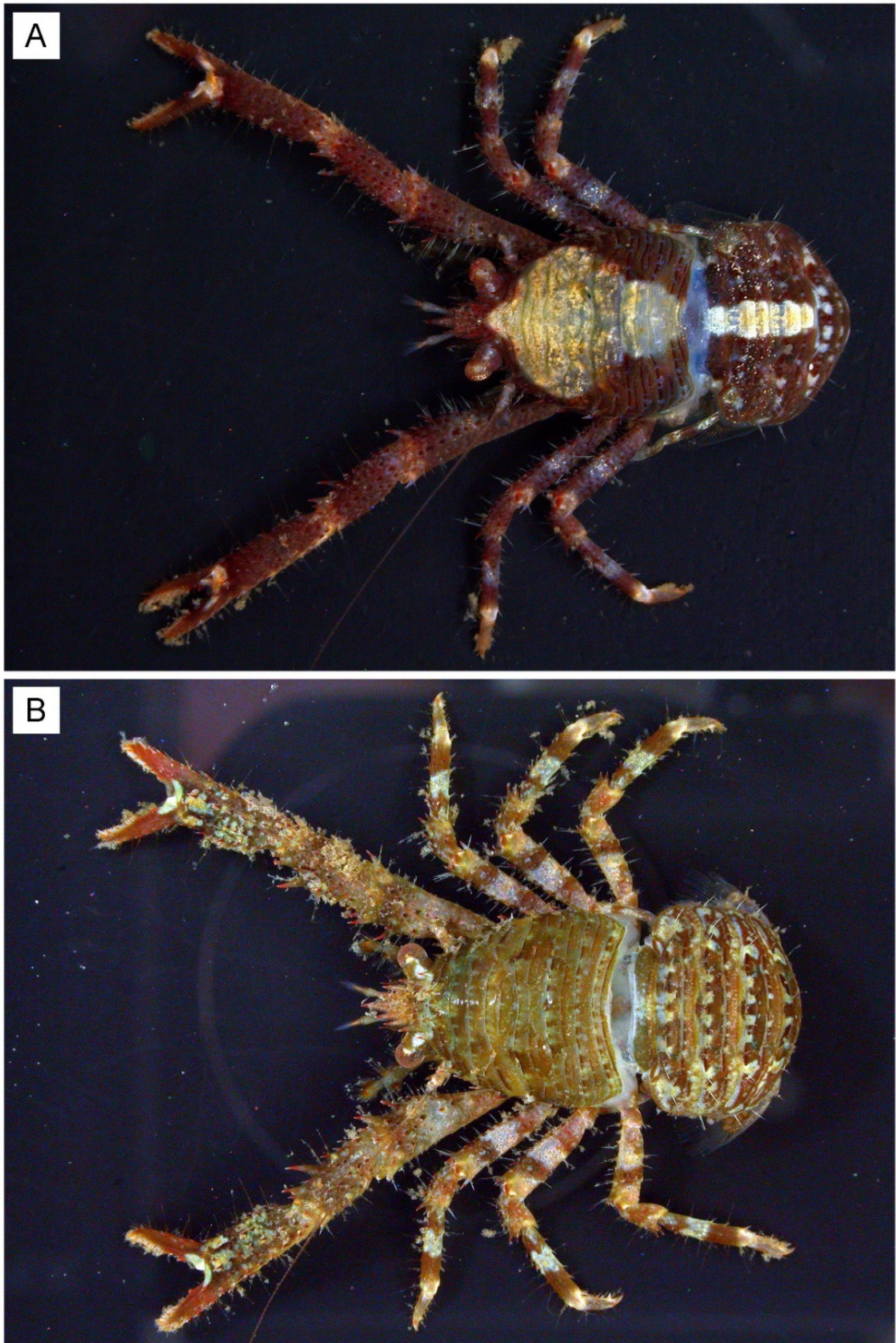


図 59. *Galathea orientalis* Stimpson, 1858 トウヨウコシオリエビ, 島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), メス (pcl 未測定) (A); 島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), メス (pcl 未測定) (B).

Galathea peitho Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 ニセウロココシオリエビ

(図 60)

調査標本. 島根県. 海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), 養殖イワガキの付着生物の間隙, 2016年6月3日, 1オス (pcl 4.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (島根県, 琉球列島 西表島, 沖縄島), マリアナ諸島 (グアム), パプアニューギニア, オーストラリア (西オーストラリア, キーンズランド) (Macpherson and Robainas-Barcia, 2015; 大澤ほか, 2018).

生息場所. 潮間帯から水深 37 m (Macpherson and Robainas-Barcia, 2015). 調査標本は, 島根県海士町保々見湾 (隠岐諸島中ノ島)周辺において養殖され, 港に水揚げされたイワガキ *Crossostrea nippona* (Seki, 1934)の付着生物の間隙から得られた (大澤ほか, 2018). イワガキ上の付着動物としては, 被覆する橙色の群体ホヤが数多く確認された. コシオリエビ類では, トウヨウコシオリエビ *Galathea orientalis* Stimpson, 1858 が同所的に複数個体見つかった.

備考. 西村・鈴木 (1977: pl. 31-2)および朝倉 (1995: pl. 98-10)が図示しているサンゴコシオリエビ (ウロココシオリエビの別名) *Galathea subsquamata* Stimpson, 1858 の個体は, Macpherson and Robainas-Barcia (2015: fig. 118I) の *Galathea peitho* Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 の標本および本調査標本に色彩がよく似ており, それらはニセウロココシオリエビである可能性がある (大澤ほか, 2017). 朝倉 (1995)は, 「(サンゴコシオリエビは)南紀沿岸ではごく普通」と記述している. そして, ニセウロココシオリエビは西太平洋から東インド洋にかけての熱帯・亜熱帯域の広範囲から記録されている (上記の“分布”を参照). これらのことから, ニセウロココシオリエビは, 紀伊半島, 日本海西部, そして琉球列島にかけての南日本沿岸に広く分布している可能性が高い.



図 60. *Galathea peitho* Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 ニセウロコシオリエビ,
島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), オス (pcl 4.7 mm).

***Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013** ヒヅメコシオリエビ属の 1 種 (和名なし)
(図 61A)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, ザラカイメンに付着, 2013 年 9 月 28 日, 1 抱卵メス (pcl 5.0 mm), SNMH.

分布. 日本 (島根県), フィリピン, 南シナ海, ニューカレドニア, バヌアツ (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013; Dong and Li, 2013; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 潮間帯から水深 120 m (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013). 調査標本は, ザラカイメン *Callyspongia confederata* (Ridley, 1884) (図 61B) に付着していた (大澤ほか, 2014).

備考. 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていたザラカイメンに付着していた乾燥個体 (現在はエタノール液浸) であり, 破損が進んでいたが, 第 2 触角や歩脚などの形態に基づき, *Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 に同定された (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 を参照; 大澤ほか, 2014).

Macpherson and Robainas-Barcia (2013) は, *Lauriea gardineri* (Laurie, 1926) の分類学的再検討を行い, この種の分布を西インド洋に限定するとともに, 5 新種を記載した. そのため, 日本国内から記録されていた「ヒヅメコシオリエビ *Lauriea gardineri*」 (例えば, 亀崎ほか, 1998; 加藤・奥野, 2001; 峯水, 2002) は, Macpherson and Robainas-Barcia (2013) が記載したいずれかの新種にあたると思われる.

調査標本は, 大きく破損した個体であるため, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.



図 61. *Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 ヒヅメコシオリエビ属の1種 (和名なし), 島根県松江市島根町小具, 漁港, 抱卵メス (pcl 5.0 mm), 乾燥 (A); *Callyspongia confoederata* (Ridley, 1884), ザラカイメン, 島根県松江市島根町小具, 漁港, 乾燥 (B).